

# MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2018 Vol.34

TAKE FREE

発行元：株式会社 松永建設  
 発行人：松永大祐  
 〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号  
 TEL ▶ 048-798-1751 (代)  
 TEL ▶ 0120-980-633 (フリーダイヤル)  
 FAX ▶ 048-798-0075  
 URL ▶ <http://www.matsunaga.gr.jp>

感動創造建設会社  
**株式会社 松永建設**

## 住みよい街へ、また一步

大型事業が続々着工へ



### 岩槻人形博物館 (仮称)

所在地：さいたま市岩槻区本町6丁目1番  
 延床面積：2,029.07㎡  
 構造：鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)、地上1階建  
 竣工予定：2019年2月

住みよい街、魅力ある街を目指し、今さいたま市ではさまざまな都市整備・開発が行われています。松永建設でも大型事業のいくつかに携わらせていただいております。「地域を元気に」をモットーに、街という暮らしの舞台づくりを担う企業として大変光栄なことと考えています。

まず、東京オリンピック・パラリンピック開催の2020年までに開館を目指し、工事が進められているのが、『岩槻人形博物館(仮称)』です。岩槻区はご存知の通り、日本有数の人形の生産地。この魅力ある地域資源である人形に特化した博物館を通じ、人形文化を未来へと継承していく役割を担います。

岩槻では、日光御成道の沿道やその周辺に、現在も城下町の風情を残す建造物が点在しています。その景観に調和するよう、人形博物館は「和」のおもむきを基調とします。また、博物館を介して御成道と裏小路を結び、遷喬館や時の鐘などへと人の流れをつなげ、街全体の活性化をはかることも計画されています。

『さいたま市立病院』の新病院建設は、「安心して暮らせる街」のシンボルとなることが期待される事業です。老朽化が進み、手狭にもなっていた旧建物を一新すると共に、地域の中核医療施設としての動きをより一層強化することを目的としています。

具体的には、救急救命センターの新設や、がん診療の地域拠点病院としての整



### さいたま市立病院

所在地：さいたま市緑区大字三室 2460 番地  
 延床面積：54,238.83㎡  
 構造：本館 鉄骨造(一部鉄筋コンクリート造)、免震構造、地上10階建  
 別館 鉄筋コンクリート造、耐震構造、地上3階建  
 病床数：637床  
 竣工予定：2019年9月

備・拡充、災害拠点病院としての機能の整備などが挙げられていて、高機能医療にふさわしい先進性やグレードを備える予定です。

そして『大宮駅東口大門町2丁目中地区』の再開発事業は、本3件のうち、最も大型のプロジェクトとなります。当該地区は、細分化された土地が入り乱れ、老朽化した建物が多数残るなど、日本有数の大型ターミナル駅である大宮駅駅前の一等地らしからぬ課題を抱えていました。しかし、このたびの再開発で防災機能の向上と、土地・建物利用の高度化が

### 大宮駅東口大門町2丁目中地区 第一種市街地再開発



所在地：さいたま市大宮区大門町2丁目40番地ほか地内  
 延床面積：約81,600㎡  
 規模：地下3階、地上18階建  
 竣工予定：2021年10月



はかられます。低層階にはショップやレストランなどの商業施設、中層階は市民ホールや多目的公共施設、高層階はオフィスと、利便性に優れたトータルな空間として生まれ変わる予定です。氷川神社を中心に織りなされる四季折々の自然。都心へのアク

セスの良さ。住・職の環境に恵まれた大宮のポテンシャルをより高める街づくりを目指しています。

いずれもジョイントベンチャー(JV=共同企業体)での事業となり、弊社は安全管理に十分留意し、魅力ある街づくりのために全力を尽くします。

祝

# 埼玉県企業局「優良工事表彰」を受賞!

工事名称：杉戸屏風深輪産業団地 (27杉戸-25号 本体整備その2工事)



▲左が施工前、右が整備工事の竣工後。フットサルコートやスケートボードエリア、健康公園など、憩いのエリアなども備える整備全区画は、現在8つの進出企業に引き渡し済みで、新規雇用の創出、定住促進などが見込まれている。下は昨年11月27日の授賞式より。



昨年11月、弊社の工事が埼玉県企業局から「優良工事表彰」を受賞する栄誉に浴しました。

北葛飾郡杉戸町に開発された産業団地の整備工事です。杉戸町の屏風地区、深輪地区にまたがる格好で開発が進められた当産業団地4区画のうち、1区画を弊社が担当、1年半にわたる施工の後、他の模範となる優れた施工を行ったものとして表彰されました。

## 経験と知見、展望力を生かした「経験工学」Victory

当産業団地の誕生は、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）の開通と深い関わりがあります。圏央道は、横浜、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市をぐるりとつなぐもので、延長約300kmのうち約270kmが開通済み。東京都内が全通した2014年、東名高速道から中央道、関越道、東北道までが首都高速道を経由しなくても結ばれた2015年を境に、一気に首都圏を取り巻く広域的な都市間の連絡が叶い、飛

躍的に物流がスムーズになりました。

その圏央道・幸手ICから約4.5km、国道4号バイパスから約0.5kmと、交通の便に優れた立地に整備されたのが、杉戸屏風深輪産業団地です。物流業、倉庫業などをメインとする企業誘致を促すことで、地元を活性化させる狙いで、事業、および施工はスタートしました。

「もとは田畑や遊休地だったところを更地にして、盛り土や整備を行い、買い手となる企業がすぐにも事業を始められるようにすることが工事の内容でした」と語るのは、現場代理人を務めた土木部の伊地知徹係長。分譲前の準備全般を行ったのだと言います。盛り土は約12万㎡、25mプールにして400杯もの量になったそう。「ひとくくり言えば『造成工事』となるのですが、その中でいろいろな工種を手がけました。盛り土のほかに水路工事、道路築造、歩道整備、下水（汚水・雨水）工事など、およそ『土木工事』と言ったときに含まれる工種をひと通り行ったようなものです（笑）。実に施工のしがいがありました」と、監理技術者を務めた土木部の齋木一徳係長は笑顔で振り返ります。

それだけに難しかったのは、工程の進め方と管理でした。発注者が描く最終絵図はあっても、どん



▲水田へのアプローチ回復工事は、農家に一軒一軒リクエストを聞いて作業。信頼の礎となった

土木部 伊地知徹係長

「近隣住民の方々とい関係構築も、大きな評価につながったそうです。工区に隣接する集会所への道で安全確保の工夫をしたり、工事つぶれてしまった水田へのアプローチを、農家各戸を回って要望を聞き、作って差し上げたりしたことが大変喜ばれたと聞き、うれしい思いです」



な土木工事でも最初のキャンパスはまっ白です。「その最終絵図に向けて、この広いヤードのどこから手をつけるか？そしてどんな順に、何を進めていくか？

その段取りを間違えないように、細心かつ適確に取り組みました」と伊地知係長。工事は天候等に左右されることが多いからと、成り行きに任せてしまう業者も少なくない中で、いい要素も悪い要素も想定に入れながら「段取り」というストーリーを描いたことは、大きなプラス評価につながったと誇らしげです。

また、「全くトラブルがなかったわけではありませんが、問題が起こったとき解決に至るプロセスも、いい評価をいただいた理由の一つだったかもしれません」と齋木係長。件の土地は、もともと田畑だったこともあり、軟弱地盤。汚水管を布設する際、通常の方法で管を埋め込んでも、不等沈下を起こすだろうことは目に見えていたそうです。「事情が許せば、弊社の得意な推進工法を採用していただきたかったのですが、難しいとのことだったので、『第2の最善策』とも言うべき工法を提案しました。」(齋木)「加



土木部 齋木一徳係長

「汚水管布設で採った第2の最善策は、以前に他の現場で上司が試した工法でした。杉戸の土壌環境や条件がその現場ととても似ていると考え、採用に至ったのですが、土木でよく言われる『経験工学』という表現が改めて身にしみる機会でした。ますます精進したいと思います」

えて、試験施工、いわゆるシミュレーション施工をし、第2の最善策の有効性をきちんと事前に示す努力も怠らないようにしました。」(伊地知)最終的に4つの工区の中で唯一、弊社の工区が管の沈下なく埼玉県企業局に引き渡しできたのは、そうした努力の賜物だったのでしょうか。

受賞の意義を尋ねると、二人とも口をそろえて、「活性化の一助となったこと、地元の方々に夢を与えられたことが何より誇らしい」と即座に答えました。「進出が決まった企業から続々と入植を始めているようで、『町に活気が出てきたよ』と地元の方がうれしそうに話してくれました。」(伊地知)「以前、他の現場で表彰を逃したことをずっと悔しく思っていたのですが、切磋琢磨が実って、十年ぶりの敵討ちが実現したよう（笑）。喜びで一杯です。」(齋木)



▲防火水槽設置のための杭打ち工。軟弱地盤を強化する規模の大きな工事

事業案内

「長く使う」=ロングライフ社会実現の切り札

# コンクリート構造物の断面修復、耐震補強に コンクリート乾式吹付工法



▲施工前の聖橋全景。近代日本建築の粋が表現された橋の美しさを、決して補修工事で損ねることのないよう、細心の注意を払って作業は行われた

工事名称：聖橋 長寿命化工事 (RCアーチ補修)

## コンクリートの経年劣化とは？

コンクリートは通常、pH12以上という高いアルカリ状態にあります。そして、この高アルカリ状態のコンクリートで覆われているおかげで、中の鉄筋も錆びずに保たれます。

ところが、長い年月の間には、コンクリートも大気中の二酸化炭素に反応し、高アルカリ状態から酸性

へ傾きます。これが経年劣化のひとつであるコンクリートの「中性化」です。中性化したコンクリートはもはや鉄筋の保護役とはならず、鉄筋は錆び、劣化し、コンクリートのクラックや爆裂を引き起こす悪循環に。クラックとは、いわゆるひび割れや亀裂、爆裂は、錆により体積が増した鉄筋のせいでコンクリートが内部から破裂した状態をいい、より重度な劣化です。

このたび弊社では、東京・神田川にかかる聖橋の「長寿命化工事」を手がけました。聖橋といえば、御茶ノ水の顔としてご存知の方も多いでしょう。竣工は昭和2年、関東大震災からの復興のシンボルとしても有名な橋梁です。当時の世風と最新技術が盛り込まれた美しいアーチ形橋梁も、築後90年が過ぎたことから、経年劣化が懸念され、大規模な補修工事に至りました。

本工事で採用されたのは、「コンクリート乾式吹付」という工法です。いわゆる生コンを型枠の中に流し込んで固めたり、左官職人が塗り付けたりする方法とは異なり、ホースの先からポリマーセメントを高速・高圧で吹き付ける画期的な工法。圧倒的にスピーディで、工期短縮・コスト削減に効力を発揮します。

この工法には、さらに大きなメリットがあります。それは、ホースを必要箇所まで這わせて施工すればいいだけという簡便さ。土木部の高師一洋係長によれば、「安定した足場が確保しにくい橋脚や、橋の裏面（床版）など、条件の悪い施工に非常に向いています」。今回、聖橋で乾式吹付工法が採用されたのも、このような理由から。アーチ形は見映えそのものは美しい一方で、施工面では大きな難となる形状です。また、聖橋の上には都心の幹線道路が走り、すぐそばには中央線、総武線、丸ノ内線も。こうした交通網や人の流れを妨げずに工事を進める、という難条件は、この工法あってこそクリアできたものなのです。

現在、世の中は「スクラップ&ビルド」、つまり「古きを壊し、新しきを造る」という考え方から、環境にやさしい「長く使う=ロングライフ」へと舵を切りつつあります。それは建物ばかりでなく、橋や道路、鉄道、港湾、上下水道といったインフラ全般にも当てはまります。その



▲命綱ともなる頑丈な足場を組んで、橋全体をすっぽりと覆うところからスタートする。カバーは工事中の景観を守りつつ、吹付け作業で出る粉塵を飛散させない役を果たす

▼橋梁の間にうがたれている細いR形状の飾り穴は、観賞するぶんにはいいが、作業的には狭く、暗い、環境の悪い現場となる



▲粉塵やセメント材の飛沫などを浴びないように、重装備で作業。ノズルで液体状になったセメント材を吹き付ける端から（手前）、専門の左官職人が平滑になるようにコテ仕上げを施す（奥）。出た粉塵は、写真には写っていないが、大型の集塵機で吸い上げて処理している。外に飛散させないための配慮



◀足場と囲いが取れ、まもなく竣工。同工法を扱うことのできる他県の会社と共同で、昨年9月からこの2月までの半年間、2班ずつ昼夜交代制で乗り切った。奥の現場はJR御茶ノ水駅の改修工事のもの

▼仕上がりはご覧の通り。最も小さい飾り穴の中は、這って入り、作業をしたという



土木部 高師一洋 係長

延命化社会、長寿命化社会の実現に大きな切り札となるのが、コンクリート乾式吹付工法です。

「本工法を手がけることのできる建設会社はまだ国内でも少なく、埼玉県で唯一となるのが弊社です。そのこともあり、東京の施工にもかかわらず弊社に声がかかりました。5年前に導入して以来、右肩上がりです。発注が増加してきて、需要の多さを肌で感じます。コンクリート構造物の長寿命化は社会使命。世の中に先がけてそれを実行できていることを誇りに思います」(高師)

優れた施工性 工期短縮 コスト削減

## 乾式吹付工法のメリット

ホース先端のノズル部で、吹き付け直前にポリマーセメントモルタル(PCM)と水を混合し、200km/hの高速・高圧で付着させます。ホースの移動で済むため、離れた場所、高所への作業も可能。いわゆる難工事の部類に向いています。



施工後

施工前



▲日本コンクリート補修・補強協会の認定を受けた技能者(ノズルマン)が施工

お客様の  
ご紹介

地球環境の保護と、労働環境の改善へ。最新設備導入の恩恵をフル活用!

# 曙ブレーキ岩槻製造株式会社様



▲完成しためっき工場の外観。手前のベランダ状の突出部に「スクラバー」と呼ばれる有害ガス処理と排風のための装置が据え付けられる。



▲曙ブレーキ岩槻製造株式会社  
代表取締役社長 村田幸雄様



▲曙ブレーキ岩槻製造株式会社  
製造部 部長補佐 中村 要様

曙ブレーキ工業株式会社様は、ご存知の通り、日本が世界に誇るトップブレーキメーカー。主力製品のディスクブレーキパッドは、今や国内では約46%、グローバルでも約21%のシェアを有し、世界の自動車の5台に1台で採用されている実績をお持ちです。その曙ブレーキ工業様が、羽生本社以外では初となる大規模製造拠点を、ここ岩槻の地に築いたのは1962年。弊社とは、当時、敷地の基礎を手がけさせていただいて以来のご縁です。分社化が実施され、曙ブレーキ岩槻製造株式会社となった現在に至るまで、長いお付き合いをさせていただいています。

今回、その曙ブレーキ岩槻製造株式会社様の敷地に完成したのは、めっき工場と、付随する廃水処理棟の2つの建屋です。「車体の制御、そして命の安全を守るブレーキという大切な部品において、『錆びさせない』『性能劣化を防ぐ』という重要な使命を持つのが、めっきによる表面処理です」と解説してくださったのは、代表取締役社長の村田幸雄様。めっき工場の新築工事は、老朽化した施設・設備を一新する目的と、もう一つ、環境配慮という大切な役割も帯びていたそうです。

「CO<sub>2</sub>排出ゼロを2050年までに達成させるなど、環境配慮に明確な目標を持って弊社は動いています。社内の環境部会も、20名体制で常時活動しているほど。そうした中、最新設備の

導入で『環境によりやさしく、より安全に』を実現することには、大きな価値があります。いわば環境への投資ですね。」

工事を管轄した製造部 部長補佐の中村 要様からは、「松永さんとは忌憚なく意見を交換し合いながら、二人三脚で進めることができました」というありがたい言葉も頂戴しました。「何しろ松永さんは、弊社の敷地の建ぺい率から把握してくださっている。むしろ松永さん主導で進めていただいた点もあったことは否めません(笑)。廃水処理棟では進藤所長、めっき工場では細田所長に毎日定時にミーティングを開いてもらい、打ち合わせを密に重ねられたことには感謝しかありません。」

定例会議では、進捗報告は言わずもがなですが、むしろ「翌日」のことに重点を置いて話し合いが持たれました。工程や資材搬入の動線の確認を大切にしたいといいます。「当たり前のことですが、工事の間も通常の業務は行われています。安全に留意し、また、業務の妨げにならないよう

に細心の配慮をめぐらすことを、まず第一に考えました」と、弊社の不動産営業部の高木 真課長は振り返ります。

春先には、近隣住民の方々に対し、廃水処理棟のお披露目が行われました。「周辺で農業を営んでいる住民にとっては、水と土壌の清浄は命といっても過言ではありません。実際に処理された廃水を見て、『うん。これだけきれいだったら、安心して米を作れるな』と言っていただき、心から安堵し

ました。」(中村様)まさに、「胸襟を開く」お披露目会。環境に対する真摯な姿勢、そして透明性が大きな実りをもたらしたのでしょうか。ますますのご発展を祈念いたします。



▲(上) めっき工場内観。近代めっき技術自体は百年近い歴史を持つ信頼のおける技術だが、使用する薬品は劇薬であり、働く環境も良いに越したことはないため、今回の最新施設への刷新工事に踏み切られた  
▲(下) 隣に建設された廃水処理棟の内部。従前は地下に埋設されていた貯水タンクは、新施設では地上へ。管理・点検が圧倒的に容易になった。「漏水などの異常が日々の点検ですぐに検知できることは、安全管理、環境汚染防止の点で飛躍的な向上になりました」と中村様



▲完成イメージを描きやすかったと好評をいただいたパース。鉄骨造で、建築面積は約2300㎡

現場から

「工場の特性を考え、鉄骨の塗膜からダクトの規模や位置まで、設計にも非常に知恵を絞りました。工事の段取りにおいても多大なご協力を得られ、感謝しています」  
不動産営業部 高木 真課長

お客様の  
ご紹介

緑道にたたずむ秀麗な姿の賃貸物件。土地活用提案の強力タッグ！

# 株式会社ヨコハウス様「ABオービットさいたま新都心」



◀氷川神社参道や周囲と調和する落ち着いたたたずまい。森緑をイメージしたバルコニーパネルは、個性はあるものの主張しすぎない透過デザイン

◀低層階テナントフロアのこげ茶と、居住階の白、外壁タイルの貼り分けがモダンネスと適度な重厚感を演出する外観。鉄筋コンクリート（RC）造6階建て、1K32戸を収める



▲株式会社ヨコハウス  
代表取締役社長 横田松博様

この度、さいたま新都心駅から徒歩約5分という絶好の立地に完成したのは、鉄筋コンクリート（RC）造の高収益賃貸マンション「AB オービットさいたま新都心」です。武蔵一宮氷川神社の参道の入り口にあたる土地に、すっきりとした瀟洒な外観がやさしくなじんでいます。

本物件は、土地の有効活用などの観点から土地開発のデベロッパー事業などを営んでいる株式会社ヨコハウス様が、その一環として行っている借地整理で得られた土地に建てられました。「元々の地主様の依頼により、17年越しで整理事業を行っている土地でした」と振り返るのは、社長の横田松博様。「ようやく借地人全員の移転先などが決まり、円満解決した土地でしたので、感慨もひとしおです。」

地主様の意向もあり、土地はヨコハウス様が買い取って賃貸マンションへと開発、そして完成したのが「AB オービットさいたま新都心」というわけです。賃貸経営を引き継ぐ新たなオーナー様への売却もすでに決定しました。そのオーナー様の強い希望で、特

にこだわって進められたのが外観デザインです。「実は当該土地の隣には、外壁にモナリザが描かれた、地元では少々有名な建物がありましてね。さいたま新都心駅の設計を手がけた、鈴木エドワードさんという建築家が設計したビルなのですが、なにしろ目立つ（笑）。そこで唯一出された注文が、『モナリザビルの隣のビル、と人様に形容されない建物を』だったのです。」

奮起したのは、設計を担った弊社営業企画部の徳弘正輝グループリーダー。ヨコハウス様と検討を重ね、しっかりとコンセプトを築くことに力を尽くしました。氷川神社の参道と言えば、総長2kmにも及び、日本一長い参道として名を馳せる存在。神宮と2000年の歴史を遠くに望みながら、両側に美しいケヤキの木が並びます。マンション各フロアのバルコニーには、その景観に合わせ、森緑をイメージした意匠パネルをしつらえることに。品格と個性あふれる建物ができあがりしました。

ところでヨコハウス様にとって、土地活用の提案事業において弊社は「同

業他社」にあたるはず。依頼して下さることに抵抗はなかったのでしょうか？ そう尋ねると、「全くなかったと

言えばウソになりますね」と、横田社長は笑って打ち明け話をしてくださいました。「実は、とある案件で松永さんと提案がバッティングしたことが過去にありました。が、悔しいことに、提案内容が弊社よりも優れていました。とにかく事業に対する姿勢と、コスト意識が素晴らしいと感嘆したもの

です。以来、いつか仕事を共にしたいと願ひ続け、今回の協業に発展したのです。お互いの長所を生かし合い、切磋琢磨することは有益でこそあれ、決して害にはなりません。」

「AB オービットさいたま新都心」は協業が生み落とした豊かな「実り」。なおかつ、次なる未来の協業に向けての確かな「芽吹き」と横田社長。「また共に手を組み、成長していきましょう」と結んでくださいました。こちらこそ、よろしく願い申し上げます。



◀建物の顔となるエントランスも、外観とバランスのとれた、モダンで品格のある仕上がり



◀夜間に室内照明が灯ると、パネルに描かれたグリーンが浮き上がる趣向になっている。「やさしい顔立ちに仕上がっているのいいですね」と横田社長

現場から

「ヨコハウス様のそもそもの出自は設計事務所。設計のクオリティ・チェックの水準は非常に高く、大変勉強になりました。おめがねに適ったとうかがい、ホッとすると共に、今後さらに信頼関係を厚くできるよう精進を重ねます」  
営業企画部 徳弘正輝グループリーダー

「偶然だったのですが、社長の横田様とは家も近く、子ども同士も同級生だったということがわかり、大変心安く接していただきました。貴重な機会を与えてくださった上にのびのびと仕事をさせていただき、感謝の念に尽きません」  
不動産営業部 小林秀重社員



建築部  
山田健斗所長



建築部  
勝山丞之介社員

# 利根川の堤防工事に子どもたちをご招待 「働くクルマ」に触れ合う、 かわいい現場見学会を開催!



◀大型バックホウの試乗を楽しむ園児たち。当日の様子はテレビ埼玉でも取り上げられ、ニュースなどで放映されました



▲ミニバックホウのスーパーボールすくい説明に、真剣な面持ちで聞き入ります

陽射しにほんのり春の色合いが混ざり始めた2月下旬、加須市大越の利根川築堤工事現場にて、「かわいらしいお客さま」を招いて現場見学会を開催しました。お客さまは、「大利根ふじこども園」に通う年長さんの園児たち40名。キャッキヤと楽しそうな歓声が上がる、にぎやかな見学会となりました。

通常、土木工事現場は安全管理の都合上、一般の方々にご覧いただくことができません。しかし、2月27日当日は、大越樋ノ口堤防の工事発注者である国土交通省関東地方整備局にご理解とご協力をいただき、安全を確保しながら湯水期の現場を開放しました。「働く人たち」「働くクルマ(重機)」に触れ合うことで、土木工事のダイナミックさとおもしろさを体感してもらうことが目的です。

見学会場には、大型バックホウやブルドーザーなど、子どもたちが大好きな、けれどもなかなか直接お目にかかることは少ない、働くクルマが集合! リアルな迫力に、子どもたちから「うわぁ…」という控えめな歓声が上がります。ところが、試乗が始まり、うなりを上げてア

ームが動き出すと、「興味津々!」とばかりに目が輝き出します。高所作業車の試乗体験も楽しんだ様子。続いては、ミニバックホウによるボールすくい競争です。真剣なまなざしでアームを操り、色とりどりのカラーボールをすくい上げようと奮闘する姿はとても愛らしく、付き添いの先生たちは目を細めること、しきりでした。

最後には、埼玉県のマスコット、コバトンと一緒に記念撮影。目の前でふわりと舞い上がるドローンでの撮影に、目が釘付けになっていました。土木工事を少しでも身近なものと感じてもらい、いつぞや園児たちの中に未来の建設業の担い手が生まれることを期待しています。



## 2018年度 松永建設グループ 新入社員のご紹介

どうぞよろしく  
お願い申し上げます!



(左から) ゲンクオック ユイ/初見直樹/中山啓也/千葉龍太郎/竹内眞優子/齋藤光希/勝田 勇/赤谷拓樹

### 社長の 男気 コラム

## 「全社一丸」「原点回帰」を今期目標に掲げたワケ 品質向上に向けて組織改革

前号でもざっとご紹介しましたが、第55期において弊社は、『ONE FOR ALL, ALL FOR ONE』をスローガンに掲げました。文字通り、一つの大きな目的に向かって全社一丸となってほしい、という願いを込めてはいますが、さらに一步踏み込んだ意味も、実はあります。それは、「ものづくり企業」としての原点回帰である「より良い施工品質」を実現させるため、全社一丸となるのが欠かせないという意味。そうです、願いや希望でなく、「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」は絶対に成し遂げるべきもの、という想いです。

それに伴って、55期に入り、組織改革も進めてきました。品質管理室、工務グループ、購買グループの3つの部門新設がそれにあたります。そのうち工務グループと購買グループは、ものごとの「一元管理」や「スリム化」を図るためのものとして起案しました。

なかなか業界の外からはわかりにくいかもしれませんが、建設業界は皆様

が考える以上に書類社会です。公共土木工事ともなると、行政向けに整えるべき書類は、なんと段ボール十数箱分に及ぶことも…! それをこれまでは現場ごとに、現場監督だけで対処していましたが、今回からは一新。全社でバックアップ体制を整えようというのが、工務グループの意義です。たとえば3現場あれば、内容を共有できる書類もかなりあります。それを一元管理することで大きな業務改善が生まれるわけです。また、現場監督が「ものづくり現場の監督」という本来の役割に全力投球できるため、品質の向上にも必ずつながっていきます。

購買グループは、資材調達のための専門部隊と言えれば伝わりやすいでしょうか。ニュースなどで報道されている通り、近年、建築資材は高騰を続けていて、お客様のコストにも大きな影響を及ぼしています。弊社では現場ごとの「都度調達」を止めました。無駄なく集中的に資材を調達したり、前倒

▶いつも側方から社を支えてくれている女性陣に、労いの気持ちを表すために「女子会」開催! いつもありがとう!



して発注したり、購買グループが差配することで、大きなコストダウンが期待できますし、これもまた、現場監督が、技術に集中して力を注げる環境を整えることにもなります。

そして、品質管理室は、施工品質の監理としての「厳しい目」となってもうことはもちろんですが、さらには、技術を、お客様対応を、そして部門間調整を指導徹底することで社内の技術力アップのための「エンジン」「心臓」として機能してほしいと考えています。チェックリストを片手に、「はい、OK。

はい、次もOK」…これなら、仕組みと知識だけあればこなせます。でも、私はこれに満足したくない。社員にも満足してほしい。なぜAが良くてBがダメなのか。Bのどこが、どんなふうダメなのか。それを自ら思考できる真の「建設人」になってほしいのです。

各々が適材適所で、各々の強みを活かしかう企業に! それが「価値連鎖」となって、お客様に感動を創造できると私は考えています。以上、松永建設の働き方改革でした!